

都道府県・ 指定都市番号	46	都道府県・ 指定都市名	鹿児島県	研究課題番号・校種名	2(1)・小学校
				領域名	伝統文化教育
学校全体で取り組む研究課題					
研究課題	(1) 伝統文化教育を地域とともに推進するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
学校名 (児童生徒数)	きかいちょうりつそうまちしょうがっこう 喜界町立早町小学校 (児童数66名)				
所在地 (電話番号)	〒891-6151 鹿児島県大島郡喜界町塩道1048番地 (0997-66-0004)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	https://sosho-2.wixsite.com/kikai-somachi-e				
研究のキーワード					
「PDC Aサイクル」「教科等横断的な視点」「シマゆみた (方言)・八月踊り (島の踊り)」「地域連携」「社会に開かれた教育課程」					
研究結果のポイント					
<ul style="list-style-type: none"> ○ この研究について2年間試行錯誤しながら取り組んだ。多くの実践によって児童や地域の方々が島の伝統文化について意識し、見つけ直す時間を作ることができた。その伝統文化に対する誇りも、少しずつ児童の中に育ってきている。また、私たち職員も自身のふるさを見つめ、尊重し守るべき大切な文化であることを再認識した。 ○ 広報委員会による毎日の放送を「シマゆみた」で実施するようしたり、階段や廊下にシマゆみたの掲示物したりした。児童に聴覚・視覚から方言のシャワーを浴びせ、伝統文化への関心を高める環境作りを行ったことで児童が郷土のよさに気づき、理解を深めることができた。 ○ 授業実践を繰り返し、教科等横断的な視点で系統的な指導を行うことができた。また、取組を積極的に公開し、PDC Aサイクルの機能を図ることで地域の理解や協力への意識が高まり、学校と地域が参画して伝統文化教育を推進するための力となっている。 					

1 研究主題等

(1) 研究主題

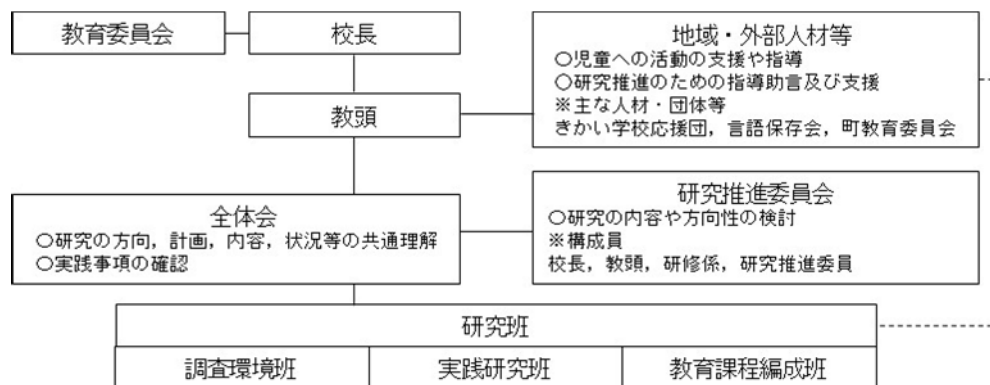
喜界島の伝統文化に誇りを持ち、受け継いでいこうとする児童を育成する教育課程の創造

(2) 研究主題設定の理由

グローバル化や人工知能などの技術革新が急速に進むこれからの時代には、国際社会の一員として生きる日本人としての自覚とともに、郷土や我が国の「伝統と文化」を大切にする心を持つことがますます重要になっている。そこで、児童に、まず自分たちの身近に過去から大切に受け継がれてきた郷土の伝統文化があることに気付かせ、体験を通して理解を深めさせ、そのよさを感じさせることが大切であると考え。そのようにして自分たちの郷土の伝統文化に誇りを持たせることで、郷土に生きる一員として大切に受け継いでいこうとする児童を育成することができるのではないかと考える。

そのために、地域の方や関係機関・団体等との連携を一層図り、実態調査に基づく効果的な指導法の工夫や、教科・領域等での横断的な指導等について実践研究を通して明らかにし、伝統文化教育を継続的に推進するための社会に開かれた教育課程の編成を図り、主題に迫りたい。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和 元 年度	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究部会，全体での研究内容の共通理解（4月） 2 P T A ・地域・関係機関・団体等への協力依頼（5・6月） 3 先進校とのビデオ会議を活用した研修，アンケートの作成，集計，分析（7・8月） 4 八月踊りの指導計画（内容や方法の検討）及び実施，掲示物等環境面の取組（9月） 5 調査官訪問による指導，検証授業，広報委員会によるシマゆみた放送開始（10月） 6 教科等横断的な視点に基づく年間指導計画（国語科）作成（11月） 7 教科等横断的な視点における各教科の学びの深まりについての実践報告（12月） 8 先進校視察，教育課程編成，1年時のまとめと次年度についての共通理解（1・2月）
令和 2 年度	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究部会，全体での研究内容の共通理解と地域・関係機関への協力依頼（4月） 2 各集落の方による広報委員へのシマゆみた指導，シマゆみた放送朝・昼開始（4月） 3 教育課程編成作業開始（教科等横断的なつながりの可視化）（4月） 4 教科等横断的な視点に立った伝統文化教育に関する指導法改善についての実践報告（7・12月） 5 言語研究者（シマゆみた）・地域女性部（八月踊り）による職員研修（8月） 6 八月踊りの指導計画及び実施，掲示物等環境面の取組（8・9月） 7 調査官訪問による指導，検証授業（11月） 8 1年時のまとめと次年度テーマへの共通理解，教育課程編成作業完了（1・2月）

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 教育課程の見直しと改善
- イ 地域及び関係機関・団体等との連携体制の構築
- ウ 指導法の工夫改善
- エ 伝統文化教育に関する実態調査と分析・考察

(2) 具体的な研究活動

ア 教育課程の見直し改善

(ア) 指導内容及び方法の工夫改善に伴う見直し

本年度より新しい教科書となったため，昨年度作成した指導計画を見直す必要性がでてきた。そこで，新しい教科書での授業実践を行いながら伝統文化に関する内容の単元名を洗い出し，伝統文化教育の年間計画に朱書きをしている。

(イ) 教科等横断的な視点に立った指導の工夫

教科等横断的な視点に立った伝統文化の指導法について昨年度1回だった授業実践報告を今年度は2回行った。1回目（1学期）は生活科・総合的な学習の時間を除いた各教科における授業実践，2回目（2学期）は生活科と総合的な学習の時間における授業実践である。報告書に実践の視点「①興味を持たせる導入及び取組の工夫」「②伝統文化に対する理解を深め発信するための指導法の工夫」を明記することにした。

（ウ）伝統文化教育に関する指導の体系化

カリキュラム・マネジメントの「教科等横断的」「人的・物的資源の活用」を踏まえ、伝統文化教育の全体計画と年間指導計画の作成を行った。伝統文化教育全体計画には、シマゆみたについて児童に身に付けさせたい資質能力を発達段階に応じて具体的に掲げた。

㊦：簡単な方言をある程度理解できる。

㊧：簡単な方言で答えることができる。

㊨：簡単な方言で、自分の気持ちを伝えることができる。

イ 地域及び関係機関・団体等との連携体制の構築

（ア）地域と連携・協働したPDCAサイクルの確立

シマゆみたの指導はクラスの児童が居住している集落に、八月踊りの指導は担当集落の方々に相談し、講師の派遣をお願いしている。事前に授業の流れや授業内容を打ち合わせ、1単位時間に身に付けさせたい力を共通理解して授業を行った。指導後は、集落の方々と一緒に本時の学びを振り返り、次時の学習計画を改善した。

（イ）地域人材を活用した連携体制の構築及び指導法研究

地域や関係機関・団体等との連携については「きかい学校応援団」の派遣ボランティアを活用した。コロナ禍の対応として、（ア）にも記載したように事前の準備を十分に行い、限られた時間で計画的に児童への指導ができるようにした。

ウ 指導法の工夫改善

（ア）興味を持たせる導入及び取組の工夫

シマゆみたを使った音楽をもとに、そこに込められた想いについて意見の交流を行った6年生「音楽科」の実践や島の絵本作家の思いに触れることでふるさとを見つめ直す3年生「総合的な学習の時間」の実践等。（シマゆみた）

（イ）伝統文化に対する理解を深め発信するための指導法の工夫

夏を感じる言葉をシマゆみたで文章にし、それに合う写真と組み合わせカードを作成した5年生「国語科」の実践や島の唄者から生の唄や島の話聞いて島の文化について考えを深めた4年生「総合的な学習の時間」の実践等。（シマゆみた）

（ウ）学校と地域のつながりの深化を図る取組

八月踊りは毎年担当地区が変わり、唄も踊りも変わる、シマゆみたも各集落によって異なるため、早めの打合せを心がけ、事前の準備を十分に行えるように職員の役割分担にも配慮した。

エ 伝統文化に関する実態調査と分析・考察

（ア）児童・保護者・職員・地域の意識及び実態調査

シマゆみたと八月踊りについて、児童用をもとに、保護者、職員、地域の方用の質問紙をそれぞれ作成し、2度調査を行った。また、自由記述で喜界島について知っていることや学習したことを記述してもらった。

(イ) 結果分析と課題把握

- これまでの歴史の中で、児童や保護者の世代にはシマゆみたが継承されておらず、また、消えかかっている現状から、保護者・地域の方々の中には、数十年後には完全に消えてしまうと考えている方、継承して欲しいと願っている方とに分かれていることも伺える。
- 八月踊りに関しても、踊る人や歌う人が少なくなっていることからいずれ消えてしまうだろうとの意見も見られたが、継承を願う児童や保護者・地域の方々の方が多く、地域行事での参加や継承団体に所属して活動をしている方々もいた。学校での活動に協力していただけるようでもあった。
- 児童・職員へのアンケートからは、2年間の取組を通して、伝統文化教育を意識して学習するようになっており、学習内容の定着だけでなく、地域の方々との関わりの大切さや良さを感じていると考えられる。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 昨年度作成した伝統文化教育の全体計画と年間指導計画に改善を加えた。年間計画には、今年度改訂した教科書の内容を教科等横断的な視点でつながりが分かるように表記し、全体計画には、シマゆみたについて児童に身に付けさせたい力を具体的に示したものを追記するなどして、より系統的、継続的な伝統文化教育の推進に取り組むことができた。(仮説1)
- 方言の課題を出すと、それを食卓で会話したり祖父母に聞いたりしたりする機会が増え、地域の方々の「次世代へのシマゆみたの継承」という意識を高めることができた。(仮説2)
- 自分の地域の特色をシマゆみたや八月踊りを通して気付く児童が増えてきた。他の地域と自分の地域を比べ、相違点を見つけ出す力も付いてきた。(仮説3)
- 八月踊りは、生の演奏の方が、CDよりも一体感があつた。奏者と踊り手が共に息を合わせる感覚を体験でき、八月踊りを全員で作る達成感を味わうことができた。(仮説4)
- コロナ禍が続く中、「新しい生活様式」の中での「伝統文化教育」に対する形状を工夫しながら、人的にも環境的にも柔軟性のある教育課程を編成していく必要がある。(仮説1)
- 方言を話せる島民の高齢化が進んでおり、しかもコロナ禍の中で直接の触れ合いや指導ができない状況である。今後、ICTの活用をベースに、発達段階に応じて、方言を正しく継承できる環境作りを行いたい。(仮説2)
- 島の伝統文化への理解は深まってきたが、なぜこんな特色を持っているのか等の疑問を追究したり、新たな課題を掲げたりして活動していこうとする力が十分でない。教科毎に身に付けた資質能力を上手く関連させ、児童の探究心を育てていきたい。(仮説3)
- 指導者との交流機会がまだまだ十分でない。指導後も発表会や学校行事への招待やお知らせをすることで、児童が地域の方と交流し続けられるようにしたい。(仮説4)

4 今後の取組

- (1) 教育実践を行いながら、伝統文化教育全体計画及び年間指導計画の更なる改善を図る。
- (2) ICTを活用した効果的な発信の仕方についての研究を行っていく。
- (3) 発達段階に応じた身に付けさせたい伝統文化力の具現化を図る。
- (4) 指導法の工夫や改善に努め、児童の個別のニーズに応えられる取組が行えるような教育課程の編成に努めていく。
- (5) コロナ禍での地域や関係団体との協働の在り方について、健康や安全を最優先しながら検討・推進していく。